☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉砕し、世界革命戦争—世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

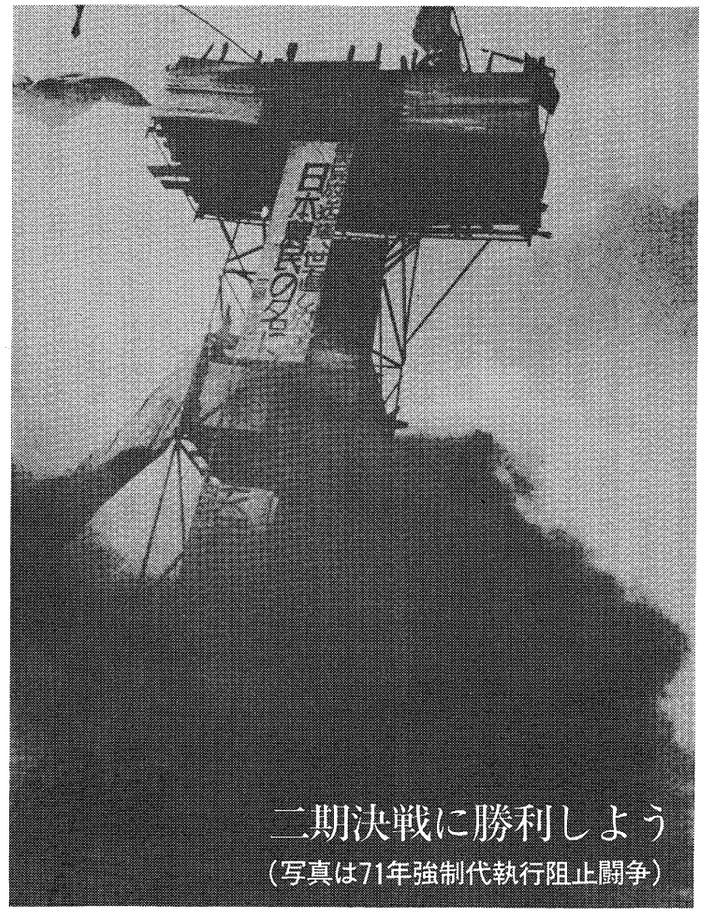
1983年
3月20日
号　外
編集発行人 高木一夫

烽火

NOROSHI

共産主義者同盟（全国委員会）
■ 大阪戦旗社　大阪市大淀区本庄東２丁目２の31 とみやビル15号 Tel(06)371-3706
○郵便振替　大阪３—６３３３３　高木一夫
○銀行口座　第一勧銀　515-1058150　高木一夫
■ 東京戦旗社　東京中央郵便局　私書箱１１１４号

三里塚闘争の防衛・発展に起て



二期決戦に勝利しよう
（写真は71年強制代執行阻止闘争）

声明

右翼日和見主義と闘い革命的労農同盟の建設かちとる新たな闘争を

共産主義者同盟（全国委）

全国のたたかう労働者人民諸君！
たたかう反対同盟のみなさん！
三里塚闘争はいま闘争史上最大ともいうべき試練に直面している。これをどのように打開していくかは、三里塚闘争のみならず、広く日本階級闘争の未来にかかわる重大な問題である。われわれは反対同盟の先進的農民と連帯し、試練を三里塚闘争の飛躍に転化すべく全力をあげる決意である。

（1）

三月八日、反対同盟総会が一六〇名の結集で開催された。あくる三月九日、反対同盟呼びかけに応じて開かれた支援連絡会議において、われわれは、三・八反対同盟総会宣言支持を基調とする共同決議に賛同の署名をおこなった。

われわれは三里塚闘争の利益と大衆運動の原則のために反対同盟総会を支持し、今後の反対同盟と階級闘争の発展のために独自の努力をおこなうという立場から賛同署名をし、ただこの目的のためにのみ共同決議に名をつらねた。

新たな事態のなかでわれわれは、革命的労農同盟の建設、三里塚闘争と階級的労働運動との結合、そして台頭する右翼日和見主義との党派闘争の勝利なくして、三里塚闘争の前進がけっしてありえないことをますます深く確信する。とりわけ今回の事態の背後にうごめく一部右翼日和見主義党派の政治的策謀を断じて見のがすことなく、これと非妥協にたたかわねばならないことをわれわれはつよく確信する。

3・27 三里塚へ 全国から結集せよ

(2)

では今回の事態の本質を何ととらえるべきか。

「一坪再共有化運動」を発端とした昨年来の反対同盟内論争は、三月八日、反対同盟のいったんの「分裂」に帰結した。

だがわれわれは反対同盟それ自身にとって「一坪再共有化運動」をめぐる対立は、解決不可能なものではなかったと考える。また「北原事務局長解任」にいたる反対同盟内の組織問題も解決できないものではなかったと考える。事実、これまで反対同盟は大衆運動組織としては卓越した能力を発揮して幾多の困難をのりこえ、時々の意見の相違を克服し、一七年間にわたって統一と団結を保持しつづけてきたのである。

今回、事態が急展開し「分裂」へといたった背景には、用地内反対同盟と青年行動隊のあいだの闘争方針上の対立が存在していたのは確かである。しかしそれは「分裂」の主要因ではない。主要な原因は、反対同盟内の自然発生的論争を前にして、これに指導的に関わっていくことを放棄し、対立を反動的に固定化しようとした中核派、および一部右翼日和見主義党派の誤まった態度にこそあった。これが問題解決を困難にし、反対同盟がみずからの力によって再結束をかちとっていくことを妨げた主原因である。

(3)

一連の過程からして中核派の諸君は、生起した反対同盟内の論争を、反対同盟の団結強化へと止揚していく努力をおこたり、逆に対立をあおり、「分裂」を決定づけた責任をまぬがれることはできない。彼らは「一坪共有化運動」に対して「土地売り渡し・金もうけ運動」なる批判を投げつけ、これを「クーデター的分裂行動」と規定して、論争を狭い戦術的対立の泥沼へと追いこみ、また組織分裂の危険性に歯止めをかけるのではなく、むしろ安易にこれに拍車をかけたのである。

かかる中核派の党派としての指導上の限界は、彼らの路線上の限界と一体のものである。すなわち彼らは、小生産手段所有者としての農民の急進的要求と無批判にむすびつき、三里塚闘争を戦闘的農民運動の枠内にとどめ、他方、反対同盟を三里塚農民の自主的な大衆組織として見ず、彼らの急進民主主義的革命路線（先制的内戦戦略）と直結する単なる戦闘拠点に化そうとしてきたのである。今回彼らがとった態度は、こうした路線の必然的なあらわれであった。

(4)

しかしわれわれがより重視してその正体をあばき、たたかいを挑まねばならないのは、反中核という農民の自然発生的気分の背後にかくれ、三里塚闘争と反対同盟を右翼的に変質させようとするいくつかの右翼日和見主義党派の策謀である。

彼らは三里塚闘争のこんにちまでの地平（①武装闘争の堅持②階級闘争の先端③全国的闘争拠点）を彼らの戦略上、不都合なものと考えている。彼らの当面の戦略的目的は、営々として築きあげられてきたわが国階級闘争の地平を社共に売り渡し、議会選挙にそなえた新たな議会主義政治潮流を形成することにおかれている。

三里塚においては彼らは、階級的労働運動と三里塚闘争の結合の一戦術たるべき「一坪共有化運動」を、市民主義的議会主義的潮流との野合の戦術におとしこめ、反対同盟総会に結集した同盟員を成田用水派と和解させんとし、反対同盟農民の反中核感情を利用して反対同盟の「分裂」の固定化をはかり、総じて三里塚闘争の右翼的再編をもくろんでいるのである。彼らは口先では三里塚闘争の「前進」や「発展」を認めるが、その内実は、三里塚闘争を農民運動の枠にしばりつけてその戦闘性だけはそぎ落し、いわば反自民統一戦線なる右翼的政治潮流のもとへ解体・吸合しようとするものである。

彼らの政治的策謀とたたかうことなくして三里塚闘争の真の発展はありえない。彼らの策謀は三里塚の内と外とをつらぬくものであり、われわれはこれと三里塚のみならず全国で、とりわけ階級的労働運動の戦場で、同時いっせいにたたかいぬく。

(5)

一部右翼日和見主義党派の台頭のなかで、三里塚闘争と反対同盟は重大な危機に立たされている。われわれは彼らと対決し、独自の道をきりひらいていくことがわれわれに要請されていると考える。とくに次の諸点の任務に全力をあげることが必要である。

第一にこの機に乗じて強められるであろう国家権力による三里塚闘争と反対同盟への破壊攻撃とたたかいぬくことである。同時に権力の走狗として登場する社共、革マルの敵対を粉砕しなければならない。

第二に三里塚闘争の先進的地平を防衛し、この清算をおこなおうとするあらゆる傾向・策動とたたかうことである。ひきつづき懐柔策＝話し合い攻撃に警戒をつよめ、成田用水絶対反対の旗を高くかかげねばならない。これらまったく当然で前提的なたたかいを欠いては一切は存在しない。

第三に三里塚闘争と階級的労働運動の陣型建設戦との結合を、いまこそ強力に推進することである。このたたかいは革命的労農同盟建設の水路をきりひらく戦略的たたかいであり、三里塚闘争を市民主義議会主義潮流に溶解させようとする部分との、もっとも激しい攻防の焦点を形づくるであろう。

第四に現在の局面を発展的に打開する主体として、反対同盟内に強固なプロレタリア的指導部の建設をかちとることである。この任務は決定的に重要である。反対同盟の新たな指導部の創出にむけて、三・八総会に結集した先進的農民との共闘をつよめ、新たなたたかいにともに踏みだしていく準備を急がねばならない。

以上の基本的任務は、転換期を迎えた三里塚闘争が直面する飛躍課題――戦闘的農民運動からの脱皮、プロレタリア階級闘争の一翼への発展という歴史的事業にとっていずれも不可欠な任務であり、これらの任務の遂行によって、現在もたらされている困難な事態を突破する展望は、はじめてきりひらかれることができると確信する。

以上をふまえ全国のたたかう労働者人民諸君に、われわれは熱烈に訴える。

いまこそ日本帝国主義の侵略反革命戦争・ファシズム準備、三里塚軍事空港完成化のための二期着工攻撃と総対決し、総力を結集して日本階級闘争の不抜の拠点＝三里塚を守りぬけ！三里塚闘争の革命的発展のために奮闘せよ！三・二七三里塚現地闘争に全国から決起せよ！

わが共産主義者同盟（全国委）はその最先頭に立ってたたかいぬく。

一九八三年　三月一六日